

令和6年度館蔵資料展

# 古文書からさぐる

# 大谷の村

農民にして武士。ふたつの顔を持つ  
大熊伊兵衛が生きた江戸時代の村、激動の幕末。



 松戸市立博物館

2024  
7.13 土 | 8.25 日

「開館時間」午前9時30分～午後5時 \*入館は午後4時30分まで 「休館日」毎週月曜日(ただし7月15日と8月12日は開館し、翌日休館)、8月23日(金)  
「後援」(公財)松戸市文化振興財団、(社)松戸市観光協会、北総緑沿線地域活性化協議会、(株)「T.M.T」 「協力」新京城電鉄株式会社、流鉄株式会社

●観覧無料







大熊家に伝わる貴重な古文書や絵図を一挙公開。  
江戸時代をたくましく生きた村人たちの姿が瑞々しく蘇る。

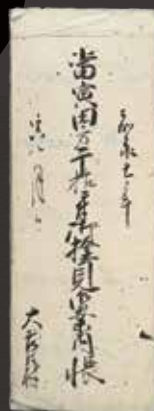


江戸時代、「村」は人びとが生活と生産を営む場であるとともに、領主が領民を把握するための支配・行政の単位でもありました。領主と村人の間に立つて村の運営を担ったのが、名主・細頭・百姓代の村役人です。市北部の大谷口村で名主を務めた大熊家に受け継がれた古文書は、年貢・諸役の取りまとめや命令の伝達・記録など、村役人の仕事ぶりを私たちに伝えてくれます。なかでも、幕末の当主10代目大熊伊兵衛は、名主にとどまらず領主である旗本土屋家の家臣(「武士」となり、財政改革や長州征討への御供など様々な仕事に従事しました。

大熊家には、農業に根差した大谷口村の信仰を伝える古文書も数多く残されています。日々の祈りにくわえ、庚申講や参詣旅行の記録からは、一つの村を越えて広がる人びとのネットワークを垣間見ることができます。本展示では、大熊家文書を通じて、江戸時代をたくましく生きた村人たちの足跡を紹介します。



1. 下総国大谷口城絵図(享保15年6月)
2. 法被・提灯の図(「諸向御留」万延2年正月)
3. 平戸弁天
4. 神明神社の百庚申
5. 江戸ヨリ成田山湯川香取息栖鹿嶋 銚子大杉筑波日光山安見
6. 当寅田方干枯二付御検見御案内帳(嘉永7年8月)
7. 御用留(嘉永6年)
8. 長州再征時の大坂玉造御小屋の様子につき書状(慶応2年正月晦日)
9. 神明神社の石祠(雨乞成就)



<http://www.city.matsudo.chiba.jp/m-muse/>

関連イベント

学芸員による展示解説会

7月20日①・8月3日①・8月4日①・8月18日①・  
8月25日① 各日午後2時30分～(約50分)

会場 = 企画展示室 申込 = 不要

アクセス

●新京成線「八柱駅」・JR武蔵野線「新八柱駅」下車、徒歩15分。または松戸新京成バス小金原団地循環が新松戸駅行「森のホール21・公園中央口」下車すぐ。●JR常磐線・武蔵野線「新松戸駅」下車、松戸新京成バス八柱駅行「森のホール21・公園中央口」下車。地下道通ってすぐ。

駐車場のご案内

●来館者専用の駐車場はございませんので、21世紀の森と広場の有料駐車場をご利用ください。\*障害者専用駐車場をご用意しております。詳しくはお問い合わせください。



**松戸市立博物館**  
MATSUDO MUSEUM

〒270-2252 千葉県松戸市千駄堀671 Tel. 047-384-8181